



「東京湾確認生物2022年の実施と  
今後の生物調査について」

東京湾生物情報とりまとめおせっ会

風呂田利夫、風間真理、小倉久子

2022年12月9日 江戸前勉強会2022



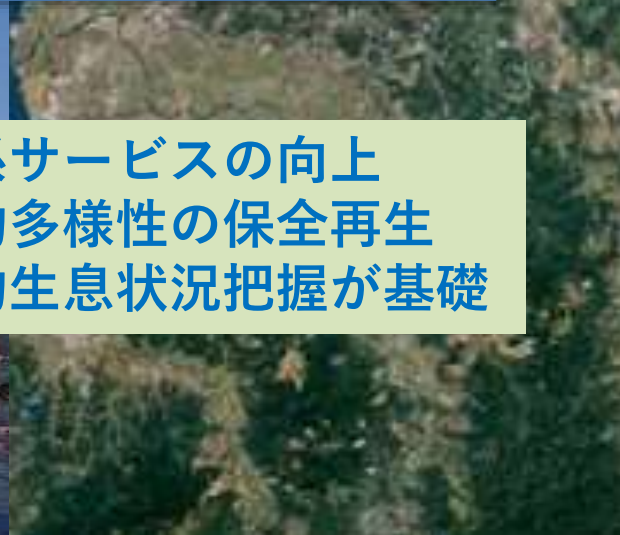
# 東京湾再生推進会議

東京湾の水質改善を目的とする再生推進会議のサイト  
Tokyo bay Renaissance Promotion Conference

東京湾再生推進会議は、快適に**水遊び**ができ、  
**江戸前**をはじめ多くの**生物**が生息する、  
親しみやすく**美しい海**を取り戻し、  
首都圏にふさわしい**東京湾**を**創出**します。

生態系サービスの向上

- ・ 生物多様性の保全再生
- ・ 生物生息状況把握が基礎



# 2022年東京湾生物生息確認報告 おせっ会とりまとめ



今年は生物枠を設けない = 全確認生物種

報告地点 18

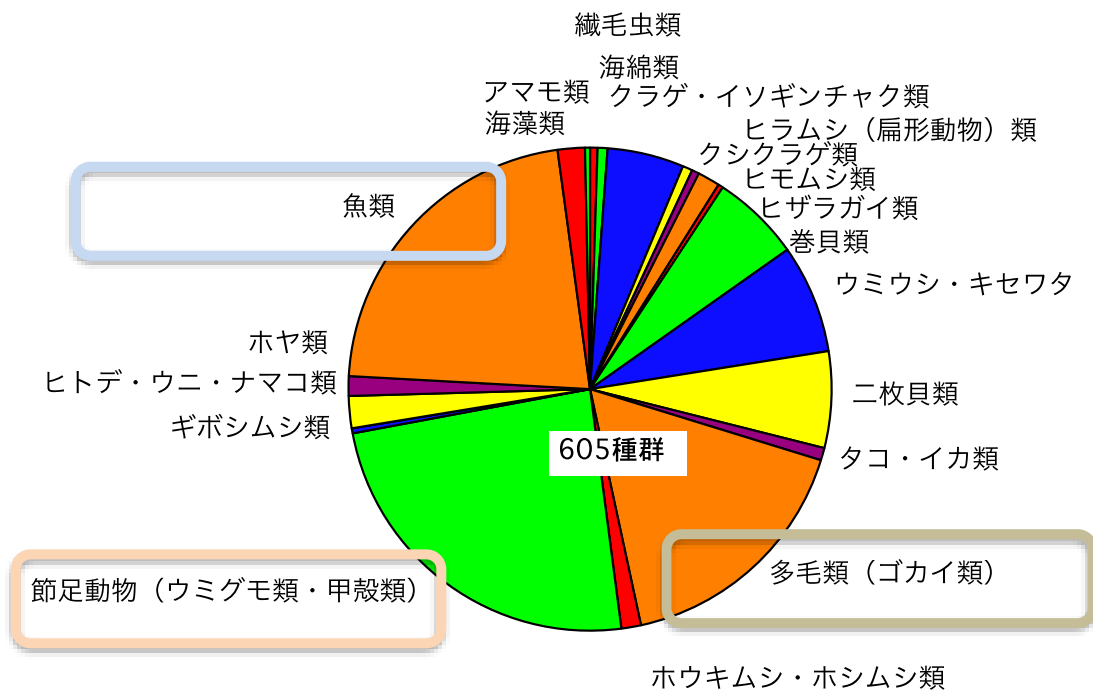
報告団体 13

## 2022年東京湾生物確認報告（中間集計）

繊毛虫類	3	タコ・イカ類	5
海綿類	4	多毛類（ゴカイ類）	102
クラゲ・イソギンチャク類	31	ホウキムシ・ホシムシ類	8
クシクラゲ類	4	節足動物（ウミグモ類・甲殻類）	146
ヒラムシ（扁形動物）類	3	ギボシムシ類	2
ヒモムシ類	9	ヒトデ・ウニ・ナマコ類	13
ヒザラガイ類	2	ホヤ類	8
巻貝類	36	魚類	133
ウミウシ・キセワタ	44	海藻類	11
二枚貝類	39	アマモ類	2
		総種群数	605

括りは主観的認識？、プランクトンは除きました。

つまりベントスとネクトン



## 605種群 (暫定)



# 報告種群の多さ

多毛類 (ゴカイ類)

チマキゴカイ科	チマキゴカイ (?)	<i>Owenia gomsoni</i>
ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>
ツバサゴカイ科	アシビキツバサゴカイ 近似種	<i>Spiochaetopterus aff. okudai</i>
ツバサゴカイ科	<u>サンバンセツバサゴカイ</u>	<i>Spiochaetopterus sanbanzensis</i>
ウロコムシ科	マダラウロコムシ	<i>Harmothoe cf. imbricata</i>
ウロコムシ科	ハモチウロコムシ	<i>Lepidonotus dentatus</i>
ウロコムシ科	ウロコムシ亜科の一種	Polynoinae gen. sp.
ウロコムシ科	ウロコムシ科	Polynoidae
シリス科	シロマダラシリス	<i>Syllis adamantea</i>
シリス科	<i>Syllis</i> 属の一種	<i>Syllis</i> sp.
シリス科	ミドリシリス	<i>Megasyllis nipponica</i>
シロガネゴカイ科	コクテンシロガネゴカイ	<i>Nephtys neopolybranchia</i>
シロガネゴカイ科	コクチョウシロガネゴカイ	<i>Nephtys californiensis</i>
シロガネゴカイ科	ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>
シロガネゴカイ科	<i>Nephtys</i> 属の一種	<i>Nephtys</i> sp.
カギゴカイ科	ハナオカカギゴカイ (?)	<i>Sigambra hanaokai</i>
ゴカイ科	オイワケゴカイ	<i>Namanereis littoralis</i> complex
ゴカイ科	イトメ	<i>Tyllorrhynchus osawai</i>

- 専門家的な分類能力

# 報告種群の多さ

- 目視、素手、たも網調査（自由調査）
  - 潜水（水中潮下帯）調査  
（作業許可：保安庁、港湾管理者、施設管理者）
  - 定置網調査（施設管理者、特別採捕許可）
  - 施設管理者の自主調査（定期、日常的）
  - 公園利用者の持ち込み
- 
- 多様な調査方法
  - 市民参加による調査努力量の増大

# 外来種

ハクライオオギガニ



# 外洋性種

ヒライソガニ



クロフジツボ



キタフナムシ



フナムシ

# 両側(淡水—海水)性種



モクズガニ



テナガエビ

# 汽水性種



シタラエビ



アリアケモドキ(写真:多留聖典)



ヤマトシジミ

# 東京湾生物多様性保全再生

・河川・湖沼―河口―内湾―外洋の連続性と各域の生物生息場の安定性

・多様な環境からの報告:

自然環境: 塩性湿地、前浜干潟、浅瀬、潮下帯

人工環境: 人工水路、親水公園、沿岸河川、自然観察施設、  
人工干潟、人工海浜、護岸堤防

多様な観察主体による観察が必要

# 東京湾生物情報收拾の課題

- 組織 現場組織(団体)はある。  
参加はボランティア(無給)
- 取りまとめ機構の不在  
対応行政、研究機関の欠如
- 行政委託調査データの活用  
集計と発表体制の欠如

# 東京湾生物情報収拾の課題

- ・多様でたくさんの参加者

イベント企画運営、安全対策、機材提供、情報発信

- ・生物同定の協力

多層の分類能力者

プロの参加促進

ガチタクソノミスト: 特定生物群の分類学研究者

プロタクソノミスト: コンサル社員

パラタクソノミスト: フリーランス、社会人研究者

エドタクソノミスト: インタープリーター、レンジャー、NPOリーダー

ワレタクソノミスト: 市民、生徒児童

今回の協力者 = ボランティア (無給)

# 課題解決

- 組織 運営体制の確立  
ボランティアから有給組織へ  
ファンド(民間と行政から)の獲得、委託業務化
- イベント化や交流研修会を通じた、参加促進
- 行政手続き(調査作業許可、特別採捕許可)の簡素化

# とりあえずできること イベント化

- ・身近な生物調査

江戸っ子生物：マハゼ、アサリ、  
ウナギ

話題性意外性のある対象生物：外来種、希少種  
チチュウカイミドリガニ、ムラサキイガイ  
汽水性カニ類、

来年度やってみよう！